

平成24年度修士論文・卒業論文概要

王, 爽

足達, 咲希

島崎, 瞳

長友, 理紗

他

<https://doi.org/10.15017/1398572>

出版情報 : 教育経営学研究紀要. 16, pp.105-133, 2013-09-30. The Laboratory of Educational Administration, Educational Law Graduate School of Kyushu University

バージョン :

権利関係 :

学校と地域の連携における 「地域コーディネーター」の役割に関する考察

島崎 瞳

(平成 25 年 3 月卒業)

【章構成】

- 序章 本論文の課題設定
 - 第一節 本論文の目的
 - 第二節 本論文の方法と構成
 - 第三節 用語の定義
- 第一章 学校と地域の連携の推進とその取り組み
 - 第一節 現行政策における学校と地域の連携の位置づけ
 - 第二節 学校と地域が連携した取り組みのねらい
- 第二章 コーディネーターの特性と「地域コーディネーター」の設置意義
 - 第一節 コーディネーターの特性の検討
 - 第二節 「地域コーディネーター」の特性と設置意義
- 第三章 「地域コーディネーター」の実際
 - 第一節 調査の概要
 - 第二節 A 小学校における「地域コーディネーター」の役割認識
 - 第三節 B 中学校における「地域コーディネーター」の役割認識
 - 第四節 学校と地域の連携における「地域コーディネーター」の役割
- 終章 本論文の成果と今後の課題
 - 第一節 本論文の成果
 - 第二節 今後の課題

【概要】

序章 本論文の課題設定

近年、家庭や地域に開かれた学校であることや子どもたちへの「生きる力」の育成の必要性が高まる中、学校と地域が連携して子どもたちへの教育を行っていくことが求められている。

そのような中で、地域住民の学校への参画を円滑に進めていくために必要性が高まっているのが、「地域コーディネーター」である。実際に「地域コーディネーター」を設置した取り組みである学校支援地域本部事業に関する調査においては、「地域コーディネーターが事業の成否を左右する」と述べられており、学校と地域の連携における「地域コーディネーター」の重要性が明らかになっている。一方で、「地域コーディネーター」自身が自らの役割が不明確であると感じているとの実態も明らかになっており、活動の運営を円滑に行う上での課題となっている。

そこで本論文では、「地域コーディネーター」の特性や課題を整理し、実際に活動する「地域コーディネーター」の活動実態から「地域コーディネーター」の役割を考察することを通して、学校と地域の連携における「地域コーディネーター」の役割を明らかにすることを目的とする。その中で、学校と地域の連携における「地域コーディネーター」の位置づけについても考察を加える。

第一章 学校と地域の連携の推進とその取り組み

本章では、学校と地域の連携が必要になってきた経緯を整理するとともに、現在行われている学校と地域が連携した取り組みの目的と位置づけを確認した。

近年、子どもたちを取り巻く社会が大きく変化し、子どもたちへの「生きる力」の育成の必要性の高まる中で、これらの必要性に応えるとともに、学校教育に地域住民の教育力を活かすことで地域住民の生涯学習機会の充実を図ることや「新しい公共」の理念を活かした学校づくりを行うという目的のもと、学校と地域の連携が求められている。そのような中で、学校運営協議会のように学校運営への地域住民参加や学校支援のためにボランティアとしての地域住民参加など、あらゆる取り組みが展開されてきた。このような学校と地域の連携においては、学校運営まで地域住民が関わることが求められているが、そのためにはまず、関係づくりが必要であると考えられる。その関係づくりの役割を果たすのが学校支援などで学校の教育活動に参加することである。すなわち学校支援などで地域住民が学校の教育活動に参加することは、学校と地域の連携のきっかけとなっていると考えられる。

第二章 コーディネーターの特性と「地域コーディネーター」の設置意義

本章では、さまざまなコーディネーターの役割や設置目的をもとに、コーディネーターの特性を考察するとともに、学校と地域の連携に特化して働く「地域コーディネーター」の特性について考察した。さらに、考察や実態を踏まえて、「地域コーディネーター」の設置意義と課題を整理した。

コーディネーターは、「つなぐ」という働きを基本として、当事者のニーズを実現するために、情報収集とニーズ実現に向けた計画や方向性の提案を繰り返しながら当事者のニーズを追求し、当事者自身が課題を解決していこうとする自主性を促す役割を果たすものであると示した。

「地域コーディネーター」は、学校と地域住民が連携した取り組みを中心となって運営していく存在として、学校、地域両者のニーズを把握し、両者のニーズを実現できるような取り組みを仕組んでいくことが求められている。そのために、学校のカリキュラムや授業のねらいを把握した上でコーディネートしていくことが、「地域コーディネーター」の特性のひとつであると考えられる。

また、実際の取り組みを通して、「地域コーディネーター」の働きかけによる学校と地域のつながりの拡大や学校と地域の相互理解の深まりによって、地域の活性化や地域の教育力向上につながることに、「地域コーディネーター」の設置意義があると考えられる。一方、課題としては、学校と「地域コーディネーター」の連携がうまくいかず、活動が円滑に行えていないことに加えて、「地域コーディネーター」自身が自らの役割が明確ではないと感じていることが挙げられる。

第三章 「地域コーディネーター」の実際

本章では、「地域コーディネーター」を設置する2つの学校の実態と「地域コーディネーター」や教員へのインタビューを通して、実態から見える「地域コーディネーター」の役割を明らかにするとともに、学校と地域の連携における「地域コーディネーター」の位置づけを検討した。

「地域コーディネーター」の役割に関しては、①学校と地域をつなぐこと、②活動の運営や参加を行うこと、③地域住民が参加しやすい環境づくり、④活動の継続の4つが抽出された。これらの役割を発揮するためには前提が必要であり、その前提としては、「地域コーディネーター」が学校の多様なニーズに応えることができるようなネットワークを持っていることやカ

リキュラムや授業における児童生徒の学習目標を理解していること、学校側が「地域コーディネーター」をはじめとする地域住民が学校に入って活動することに理解していることが挙げられる。

また、「地域コーディネーター」は地域住民がボランティアとして学校で活動することを促していることから、「地域コーディネーター」が働きかけることは、学校と地域の連携が学校支援から学校運営へと展開していく上での、きっかけづくりになりえているといえる。すなわち「地域コーディネーター」の働きが学校と地域が連携していく上でのきっかけとして位置付けられると考える。

終章 本論文の成果と今後の課題

本論文の成果は、実際に活動する「地域コーディネーター」の認識をもとに4つの役割を抽出し、その役割を発揮する前提として、地域におけるネットワークを持っていること以外にも、学校の教育活動の内容や目的に対する理解も必要であるということが明らかになった点であると考える。さらに、「地域コーディネーター」自身の認識としては、学校と地域をつなぐこと以上に、地域住民が活動しやすい環境をつくることを重視している傾向があることを明らかにしたことも、成果の一つであると考えられる。

一方、本論文では、インタビューの対象が、「地域コーディネーター」に偏ってしまい、「地域コーディネーター」の役割も「地域コーディネーター」自身からの視点のみでの非常に限定的な役割認識にとどまってしまった。また、今回「役割」に関して、活動内容や自らに求められている働きの認識、他者によるコーディネーターの役割認識という点から導いているが、明確に定義しきれず、活動内容が明らかになったのみであった。これらの課題を踏まえ、まず役割とは何なのかを定義した上で、今回明らかにした「地域コーディネーター」自身の役割認識とともに、教職員や地域住民の「地域コーディネーター」に対する役割期待を踏まえた、「地域コーディネーター」の役割を定義することを今後の課題とする。

【主要参考文献】

- ・ 天笠茂・小松郁夫編著『学校管理職の経営課題 これからのリーダーシップとマネジメント2「新しい公共」型学校づくり』、ぎょうせい、2011
- ・ 池田寛『教育コミュニティ・ハンドブック 地域と学校の「つながり」と「協働」を求めて』、解放出版社、2001
- ・ 岡崎友典・玉井康之『コミュニティ教育論』、放送大学教育振興会、2010
- ・ 日本社会教育学会編『学校・家庭・地域の連携と社会教育』、東洋館出版社、2001
- ・ 巡静一編著『実践 ボランティアコーディネーター』、中央法規出版、1996